

2015' 合格体験記

早大(教) 明大(商) 学習院(法・経)合格 水吉亮太郎 (燕吉田小→燕吉田中→新潟三条高)

一年間、東大ゼミで勉強して、憧れの早稲田(教)に合格することが出来ました。僕は新潟での現役の時にはMARCHはおろか日東駒専も全滅して、北本で一人暮らしをしながら東大ゼミに通いました。一浪した身としてしみじみと分かった事を一つだけアドバイスをさせてください。

それは「志望校の過去問はなるべく早くから手を着けた方がよい」という事です。なぜなら第一に、大抵の人は高三の秋～冬頃から過去問に手を着け、そこで過去問の難しさ、自分の点数の低さに絶望してしまい、レベルの低い学校に下げたり、またそのまま受験して玉砕してしまうということになりやすいからです。僕も現役の時、第一志望の明治大を合格最低点七割なのに五割少ししか取れずショックで自暴自棄になってしまいました。だから現役でも入試の少なくとも一年～一年半前位から過去問に手を着けるべきです。

それでは「基礎はいつ身に着けるのか？」と思う人もいるでしょうが、それは大丈夫です。なぜなら、基礎は過去問を徹底的にこなすことの積み重ねで身に着けることが出来るからです。しかし、ここで注意したいのは、ただ漫然と過去問をこなすだけはダメだということです。最も重要なのは「直し」です。東大ゼミでは一回目は青色ペン、二回目は緑ペンで「直し」をしますが、「青ペン直し」が特に大事です(青ペンの法則)。「なぜこの問題を間違えたのか」とテキストなど何も見ずに熟考する事で「自分で考える力」が身に付くからです。また、それにより間違えた箇所が印象に残り、次に似たような問題が出た時にも対処しやすくなるからです。

また、解説を丁寧に読みながらの答え合わせも重要です。答えをただ丸写ししようものなら全く何も身に付きません。逐一「なぜこの問題はこのような答えになるのだろうか？」とチェックしなければいけません。最初から合っていた問題も見過ごしてはいけません。まぐれで合っていたという事もあるからです。

また、塩田先生の指導により早大の過去問のみをやり模擬テストは一度も受けてません。それでも合格しました。以上、色々ある中、過去問の事だけになってしまいましたが、一受験生として素直に思ったことを書いたので、後輩の皆さんが参考にして下さるのなら幸いです。

最後に、塩田先生、一年間という短い間でしたが、この浪人生活は僕にとって最も実りある一年になりました。本当にありがとうございました。(青ペンの法則＝自分で考えた青ペンの点数までの実力は後々つくという法則)